

# プログラミング支援ツール NP4H-SEDBV3 バージョンアップについて

## 1. 対象機種

IEC61131-3 準拠プログラミング支援ツール SX-Programmer

形式	品名	最新バージョン	バージョンアップ時期
NP4H-SEDBV3	Expert (D300win)	V3.4.5.0	2008年11月

## 3. 最新バージョン V3.4.5.0 の主な変更内容 (2008年11月)

### (1) SPH300 対応機能の拡張

SPH300 の「構成チェック待ち時間指定モードの選択」機能と、「ユーザ ROM 未認識時の故障表示」機能に対応しました。

### (2) SPB/ボードコントローラ対応機能の拡張

SPB/ボードコントローラの高速度カウンタ設定に「現在値更新タスク設定」機能を追加しました。

### (3) 不具合修正

SPH2000 シリーズにおいて、ユーザ FB を 2 段以上ネスティングしている場合に、BOOL 形変数をユーザ FB の VAR\_INOUT 端子へ接続すると正しく演算が実行されないことがある不具合を修正しました。

## 4. 主なバージョンアップ履歴

### (1) V3.4.4.1 (2008年9月)

#### ①不具合修正

SPH2000 シリーズにおける CPU とのプログラム (プロジェクト) 照合機能にて、プログラムステップ数が一致している場合の照合不具合を修正しました。

### (2) V3.4.4.0 (2008年5月)

#### ①SPH2000 対応機能の拡張

SPH2000 のメールクライアント、ユーザでの汎用通信設定、PODとのパラレルインタフェース接続の各機能に対応しました。

#### ②@E. Integrator 対応

### (3) V3.4.3.0 (2007年11月)

#### ①通信設定の COM ポート数を 256 ポートに拡張しました。

#### ②SPH200 対応機能の拡張

SPH200 のシステムプロパティに、構成チェックの待ち時間モードを「構成一致待ち/指定時間待ち」から選択可能とする機能を追加しました。

### (4) V3.4.2.0 (2007年8月)

#### ①ボードコントローラ対応機能の拡張

- ・ボードコントローラの CPU パラメータに、高速入力コネクタへの信号の論理を立ち上がりエッジ/立ち下がりエッジから選択可能とする機能を追加しました。
- ・ボードコントローラの CPU パラメータの簡易 CPU リンク機能に、リンク局番を外部から設定する機能を追加しました。
- ・ボードコントローラのカレンダー情報に曜日データとカレンダー書き込み要求を追加しました。

#### ②故障診断機能の改良

SPH300 の故障診断機能に、故障状態を自動解析して表示する「故障解析」機能を追加しました。

※「故障解析」機能を使用する場合、Microsoft 社製 [.NET Framework 2.0] のインストールが必要です。  
「6. バージョンアップ方法」を参照ください。

### (5) V3.4.1.0 (2007年5月)

- ①SPBの「バッテリー異常検出しない」モード対応  
SPBのCPUパラメータに「電池異常検出」の項目を追加しました。
- ②モニタ値表示の改良  
10進表示に「ゼロサプレスあり」、実数表示に「標準の小数点表記」の表示機能を追加しました。

(6)V3.4.0.0 (2007年2月)

- ①基本機能改良  
変数エディタのEXCEL連携、変数プロパティダイアログ、クロスリファレンス自動更新、プロジェクト比較、ウォッチウィンドウへの配列／構造体登録の、各機能を改良しました。
- ②ラダーエディタの機能改良  
左母線の整列、ワークシート分割、回路コメントジャンプの、各機能を改良しました。
- ③SPH300 ユーザROM運転なしモードへの対応
- ④SPH2000 冗長化CPUモジュール(NP1PM-256H)対応
- ⑤V3.3.7.1の不具合修正  
グローバル変数シートの容量が大きい場合、クロスリファレンスの作成を実行するとExpertが強制終了することがある不具合を修正しました。

(7)V3.3.7.1 (2006年12月)

- ①3.3.7.0の不具合修正  
SPH200またはSPBに対してプロジェクトをダウンロードすると、アプリケーションエラーになる不具合を修正しました。

(8)V3.3.7.0 (2006年11月)

- ①ボードコントローラ Iリンクオプションカード対応

(9)V3.3.6.0 (2006年10月)

- ①IPアドレスリスト ネットワーク機器検索機能  
IPアドレスリスト機能にネットワーク機器検索を追加しました。
- ②ZIPファイルのオフライン保存機能  
ZIPファイルをパソコンのディスクに保存する機能を追加しました。

(10)V3.3.5.0 (2006年8月)

- ①サーボシステムFALDICA ALPHA5対応
- ②V3.3.4.1の不具合修正  
SPH300EX以外の機種にて、変数名の最後が ' \_E' のグローバル変数をAT指定するとコンパイルエラーになる不具合を修正しました。

(11)V3.3.4.1 (2006年7月)

- ①高性能CPUモジュール SPH300EX対応
- ②V3.3.3.0の不具合修正  
SPH2000(NP1PM-48E/256E)にて、FTPアクセス機能が使用できない不具合を修正しました。

(12)V3.3.3.0 (2006年5月)

- ①パスワード機能の拡充  
前バージョンで追加した、PLCオンライン操作の制限設定機能に対し、ユーザにてアクセス制限範囲を設定する機能を追加しました。パスワードによって制限される機能はアクセスレベルごとに設定できます。
- ②クロスリファレンス付きラダープログラム印刷機能追加  
プロジェクト印刷機能にて、クロスリファレンス情報をプログラム印刷ページと同一ページに印刷する機能を追加しました。
- ③変数定義ダイアログの設定改善  
変数定義ダイアログにて、グローバル変数グループの指定方法の「ワークシートの全変数を表示」機能のデフォルト状態を「設定有り」に変更しました。
- ④変数情報のツールチップ表示  
ワークシート上に各変数のデータ形、初期値、コメントなどをツールチップ形式で表示します。

(13)V3.3.2.0 (2006年1月)

- ①パスワード機能の拡張  
PLCオンライン操作の制限を設定する機能を追加しました。  
本機能を使用してアクセス認証用パスワードを設定することにより、PLCへの操作をレベル1、レベル2、レベル3、の3段階で制限することが可能となります。
- ②変数表示モードの一括リセット 設定  
LD/FBDワークシートにおける変数表示モードを一挙動でデフォルト設定に戻す機能を追加しました。
- ③SPH300 ファームウェア対応 (V\*\*65)
  - ・縮退立上げ時間短縮機能
  - ・強制設定状態継続運転

(14) V3.3.1.0 (2005年11月)

- ①ボードコントローラ対応
  - ・システム支援機能の追加  
システム構成、CPU動作定義、CPUメモリ割付、高速カウンタ設定、RS485設定
  - ・オンライン機能の追加  
コントロールダイアログ、パスワード機能、デバッグ機能、メモリ転送

(15) V3.3.0.0 (2005年8月)

- ①システム定義 未実装操作の改良  
1クリックでモジュールの実装/未実装を切り替えることが可能としました。また、未実装一括設定機能の1クリック操作により、構成ツリー上で選択されているモジュールとその階層下のモジュールを一括で未実装に設定または設定解除することができます。
- ②SPH2000対応  
新系列CPUモジュールSPH2000に対応しました。

(16) V3.2.1.0 (2005年6月)

- ①製品名称の変更  
従来の名称「D300win」より、「SX-Programmer Expert(D300win)」に名称を変更しました。
- ②変数エディタの変更  
Microsoft Excelとの連携、編集操作の改良、変数の一括挿入等の改良をしました。
- ③プロジェクト編集の改良  
圧縮プロジェクト(ZWTファイル)の解凍、プロジェクトツリーエディタの機能改良をしました。
- ④印刷機能の改良  
プロジェクト印刷のページ指定印刷、変数ワークシートの折り返し印刷を追加しました。
- ⑤SPH300 I/O領域拡張への対応  
SPH300 (V\*\*64以降)のI/O領域拡張機能に対応しました。

(17) V3.2.0.0 (2005年4月)

- ①カーネル機能のバージョンアップ
  - ・変数定義ダイアログの改善
  - ・ファンクション/FB定義ダイアログの改善
  - ・変数ワークシートの操作改善
  - ・POUグループ機能の追加
  - ・サンプリングトレース機能の拡張
  - ・メッセージウィンドウの改善
- ②プロジェクト履歴機能  
ダウンロード成功後 (POU変更含む) プロジェクトの履歴を保存する機能を追加しました。
- ③故障診断機能の改良  
詳細RASに表示されるメモリダンプ表示の一部を文書表示します。

(18) V3.1.4.0 (2004年10月)

- ①プロセッサリンクモジュール最大構成数拡張対応  
プロセッサリンクモジュール (リンク、FL-net など) の最大構成数を8台へ拡張しました。
- ②システム定義の設定追加

システム定義のシステム動作定義設定に「CPU” 0” なしシステム立上げ」設定を追加しました。  
システムプロパティのシステム縮退立上げ動作定義に「拡張設定」を追加しました。

(19) V3.1.3.0 (2004年8月)

- ① SPH CPUボード サンプリグトレース機能対応  
サンプリグトレース機能を実装した CPUボード (NP3PS-SX1PCS74 V\*\*63) へ接続時、高精度サンプリグトレースが起動するよう対応しました。

(20) V3.1.2.0 (2004年5月)

- ① 8kステップPOU対応  
SPH300 (V\*\*62以降)のPOU 8kステップに対応しました。
- ② SX制御ユーティリティの改良  
メッセージマネージャによるオンライン接続に対応しました。  
これにより、Expert (D300win) と制御ユーティリティが、同一ポートでの同時通信が可能になります。

(21) V3.1.1.0 (2003年12月)

- ① サンプリグトレース対応  
SPH300 (V\*\*61以降)のサンプリグトレース機能に対応しました。
- ② オンライン機能の改善  
故障診断機能において、システム重故障集約情報に表示されるPOU番号に対応したPOU名を表示するように改良しました。

(22) V3.1.0.0 (2003年6月)

- ① 小形PLC SPB対応  
SPBのIEC61131-3準拠プログラミングを可能としました。
- ② SPBシステムソフトユーティリティ  
SPBの基本ユニットのシステムソフトウェア (ファームウェア) をSXモード (IEC61131-3準拠言語) に更新できます。
- ③ SX制御ユーティリティの機能追加  
データ編集機能を拡張し、時間形、文字列形を追加しました。  
バックアップファイルの読み込み、編集機能を拡張し、タブ区切りテキスト形式を追加しました。

(23) V3.0.0.0 (2002年12月)

- ① 新ラダーエディタ  
ラダーワークシートの表示/編集を行うラダーエディタを、従来のフリーレイアウト形式から、グリッド枠固定形式に改良しました。これによりキー操作でのプログラミングが容易に行えます。
- ② 変数ワークシートのテーブル化  
変数ワークシート (ローカル/グローバル) が表形式となり、変数の整理がし易くなります。
- ③ プロジェクトのプロテクト機能の追加  
プロジェクトに対するパスワードによる木目細かいプロテクトが可能となり、セキュリティ性が向上します。
- ④ 故障診断機能の改良  
構成情報を確認しながら故障情報を解析できるため、故障診断が容易となります。

5. 従来品との互換性

今回のバージョンアップによるプログラムの互換性は下表の通りです。

	旧バージョンで作成のプログラム	V3.4.5.0で作成のプログラム
NP4H-SEDBV3 旧バージョン	○	△
NP4H-SEDBV3 V3.4.5.0	○	○

新バージョンの機能を使用したプログラムは、旧バージョンのExpert (D300win) では非互換が発生します。

6. バージョンアップ方法

- (1) パソコンのハードディスクに任意のフォルダを作成します。
- (2) 作成したフォルダに V3. 4. 5. 0 用アップデートファイル「ExpertUpdateV3450. exe」をダウンロードし保存します。
- (3) ファイルをダブルクリックします。（アップデートファイルは自己解凍型圧縮ファイルです）
- (4) 作成したフォルダ内にファイルが解凍されます。
- (5) 解凍したファイルの「Setup. exe」をダブルクリックします。
- (6) インストーラの指示に従い、インストールを行います。
- (7) インストールが終わったら Expert (D300win) を立ち上げ、「ヘルプ」メニューの「情報」にて、バージョンが V3. 4. 5. 0 になっていることを確認します。

プログラミング支援ツールのバージョンアップは、『Fe library』のページからダウンロードできます。

Fe library ENTER